

(49)

氏名(生年月日)	ムラキヒロシ 村 木 博
本 籍	
学位の種類	博士(医学)
学位授与の番号	乙第1576号
学位授与の日付	平成7年9月22日
学位授与の要件	学位規則第4条第2項該当(博士の学位論文提出者)
学位論文題目	T2乳癌症例の予後解析と亜分類の試み
論文審査委員	(主査) 教授 浜野 恭一 (副査) 教授 笠島 武, 大澤真木子

主 論 文 の 要 旨

〔目的〕

乳癌の病期はTNM分類でI期からIV期に区分される。最も多い病期II症例の殆どはT2症例であり、規約上のT分類では、T2症例は腫瘤径2.1cmから5.0cmまでの広い範囲の症例が含まれる。そこでT2症例をさらに細分化し、予後解析に行つて予後の良好な群と不良な群の亜分類を試みた。

〔対象および方法〕

1979年1月から1986年12月までに当教室で根治手術を行った乳癌患者のうち男子乳癌、両側乳癌、炎症性乳癌、妊娠・授乳期乳癌、病期IV、他癌合併例、他癌死・他病死例を除くと316例である。このうちのT2症例137例より病期IIIに属する5例を除き、病期IIに属する132例を対象として検討し、次いでT1症例134例との比較を行った。

1. T2症例132例における乳癌背景因子と再発率・生存率との関連の検討を行った。

2. T2症例を腫瘤径別にA群(2.1~3.0cm)とB群(3.1~5.0cm)に区分して比較検討を行った。

3. T2症例A群(2.1~3.0cm)と予後の良いT1症例(~2.0cm)との比較検討を行った。

〔結果〕

予後を反映する因子としては組織学的リンパ節転移が最も重要であるが、次いで腫瘤径が重要である。

2. T2症例A群はB群に比べてリンパ節転移、再発(特に遠隔再発)が有意に少なく、また10年健存率、生存率が有意に良好であることより、T2症例は2群に亜分類すべきと考えられた。

3. T2症例A群(2.1~3.0cm)をT1症例(~2.0cm)と比較するとリンパ節転移、10年健存率、生存率に関して有意差はなく、T2症例A群はT1症例と同様に扱い、B群とは区別すべきと考えられた。

〔考察および結論〕

今回の検討で2.1~5.0cmの乳癌すべてに対して同じ扱いをするのは無理があると思われる。T2症例は2.1~3.0cmと3.1~5.0cmに亜分類して検討すべきと考えられた。またT2症例A群(2.1~3.0cm)はT1症例(~2.0cm)と同様の予後を示したことより、2.1~3.0cmの症例は縮小、温存手術の適応などに関してT1症例と同等に扱うことができると考えられた。乳房温存手術は腫瘤径2.0cmまでの症例に多く行われていたが、今回の検討より乳房温存手術の腫瘤径上の適応は3.0cmまで拡大しても安全であることが示唆された。

論文審査の要旨

乳癌の病期分類 (TNM 分類) において, 最も多い病期II症例の大部分は T2症例であり, これは腫瘍径2.1 cm から5.0cm までの広範囲の症例が含まれる. 本論文は, 病期IIの T2症例132例を対象として, 乳癌背景因子と再発率, 生存率との関連を多変量解析により検討すると共に, T2症例を腫瘍径別に, A 群(2.1~3.0cm), B 群 (3.1~5.0cm) に分け比較検討を行ったものである.

その結果, 予後を反映する因子は, 組織学的リンパ節転移が最重要で, 次いで腫瘍径であること. A 群は B 群に比して有意に再発率, 生存率が良好であること. A 群は T₁症例(腫瘍径2.0cm 以下)と予後がほぼ等しいこと. 従って A 群は B 群と区別し, T₁症例と同様に扱うべきであることを明らかにしたもので, 学術上, 臨床価値ある論文である.

主論文公表誌

T2乳癌症例の予後解析と亜分類の試み

東京女子医科大学雑誌 第65巻 第4・5号
356-365頁 (平成7年5月25日発行) 村木 博

副論文公表誌

- 1) 教室例における交通事故死亡例についての検討.
日救急医会関東地方会誌 7(1):158-159 (1986)
村木 博, 笠井 恵, 鈴木 忠, 倉光秀麿, 織畑 秀夫
- 2) 第VIII因子関連抗原染色を用いた乳癌の血管侵襲と病理学的因子との関係についての検討 第2報.
日臨外医会誌 52(10):2269-2276 (1991) 加藤孝男, 木村恒人, 村木 博, 神尾孝子, 藤井昭芳, 山本和子, 浜野恭一, 相羽元彦, 河上牧夫
- 3) 鈍的外傷により興味ある胃壁裂創をきたした2例. 日救急医会関東地方会誌 12(2):406-407 (1991) 金木昌弘, 鈴木 忠, 石川雅健, 藪田 裕, 横山利光, 村木 博, 浜野恭一
- 4) 第VIII因子関連抗原染色を用いた乳癌の血管新生に

についての検討. 日癌治療会誌 27(10):1819-1829(1992)加藤孝男, 木村恒人, 村木 博, 神尾孝子, 藤井昭芳, 山本和子, 浜野恭一, 相羽元彦, 河上牧夫

- 5) 第VIII因子関連抗原染色を用いた乳癌の血管侵襲と病理学的因子との関係についての検討 (第3報) —Elastica van Gieson 染色を併用して—. 日臨外医会誌 54(2):294-301 (1993) 加藤孝男, 木村恒人, 村木 博, 神尾孝子, 藤井昭芳, 山本和子, 浜野恭一, 相羽元彦, 河上牧夫
- 6) 乳癌患者における術後内分泌療法と骨量変化について. 日臨外医会誌 54(8):1966-1971 (1993) 木村恒人, 中西明子, 村木 博, 神尾孝子, 加藤孝男, 藤井昭芳, 山本和子, 浜野恭一
- 7) 異常乳頭分泌症に対する乳管腺葉切除術. 手術 48(12):1987-1993 (1994) 木村恒人, 村木 博, 神尾孝子, 加藤孝男, 藤井昭芳, 山本和子, 浜野恭一